戦争・植民地主義・戦時性暴力をめぐる記憶の継承と教育実践

# 映画『黒川の女たち』

## 戦争の記憶を語る、表象する

**12.14** 月　**13:00 – 17:30**

大阪公立大学　森之宮キャンパス　1205教室

戦争の経験は、長い沈黙を経て、どのように言葉となり、映画や文学などを通じて表象されるのか。また、その過程で何が語られ、何が語られずに残るのか。本研究会では、映画『黒川の女たち』を起点に、証言する者と聞く者との関係、沈黙と言葉、記憶の継承と文化的表象をめぐる問題を、映画制作、文学・語用論研究、ウクライナの文学・文化研究の異なる視点から考える。

### 登壇者

上映後トーク
**松原 文枝**
映画『黒川の女たち』監督

文学・語用論
**Manuel Jobert**
リヨン第三大学・アメリカ文学

文学・映画・文化研究
**Iryna Shuvalova**
ウクライナ詩人、文学研究者

### プログラム

| | |
|---|---|
| 13:00 – 13:10 | **開会・趣旨説明** |
| 13:10 – 14:50 | **映画『黒川の女たち』上映**　（日本語・英語字幕版） |
| 14:50 – 15:10 | **休憩** |
| 15:10 – 15:40 | **監督講演　松原文枝**　（英語への逐次通訳あり） |
| 15:40 – 16:10 | **Manuel Jobert**　リヨン第三大学・アメリカ文学（英語による発表・日本語要旨配布）<br>**「戦争トラウマをどう表象するか――メアリー・リン・ブラクト『白い菊』を読む」**<br>“Representing War Traumas in *White Chrysanthemum* by Mary Lynn Bracht” |
| 16:10 – 16:40 | **Iryna Shuvalova**　ウクライナ詩人、文学研究者（英語による発表・日本語要旨配布）<br>**「戦時下ウクライナにおける規範を越境する女性性――社会変容と文化的表象」**<br>“Transgressive Femininities in Wartime Ukraine: Social Shifts and Cultural Representations” |
| 16:40 – 17:20 | **ディスカッション／質疑応答**　Discussion / Q&A　（日英通訳付き） |
| 17:20 – 17:30 | **閉会** |

## 参加申込はこちら

**申込締切：12月12日（土）**／先着50名

※ 映画には性暴力に関する証言が含まれます。ご自身の状況に応じてご判断のうえ、ご参加ください。

**使用言語：日本語・英語（一部通訳あり）**

主催：研究科プロジェクト2026